

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	香川大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カガワダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F137110110310
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	香川県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	地域インターシップ
	学部・研究科等名	大学教育基盤センター、地域連携・生涯学習センター
	担当教職員名・役職	神田亮・特命講師、長尾敦史・特命講師
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	48
	受入企業等数	9
	受入企業等名	善通寺市、丸善雄松堂 ・ふるさと学芸館 ・東洋オリーブ ・ヤマロク醤油 ・宝食品 ・小豆島ふるさと村 ・相生ふるさと協議会、地域おこし協力隊
	インターンシップの分類	6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている	

要素③		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	過去のインターンシップでも事例を紹介しながら、ケース別に対応方法などを指導する。就業体験だけでなくどういう課題が想定されるかなどを何を学ぶべきかを指導する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	日報やレポートを使い、何を学んだか、などの振り返りを行う。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	期間中にインターンシッププログラムに教員も参加し、様子を知ることを行う。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している

要素⑥		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	この授業は、企業への直接的な就職に結びつく授業ではないことを考慮してもらい、企業が地域で果たす役割などが学習できるようにプログラム設計にあっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www2.st.kagawa-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2021&lct_cd=000806
問い合わせ先	大学等名	香川大学
	担当部署名	共創人材養成グループ
	担当者役職名	グループ員
	担当者氏名	中村 優介
	電話番号	087-832-1168
	メールアドレス	kossen@kagawa-u.ac.jp